

150 「ムナ」のたとえ

ルカによる福音書 19 : 11~28、マタイ 25 : 14~30 (「タラント」のたとえ)

11 人々がこれらのことに聞き入っているとき、イエスは更に一つのたとえを話された。

(イエスがエリコから) エルサレムに近づいておられ、それに、人々が神の国はすぐにも現れる (→明らかにされる、あらわにされる) もの と 思 っ て い た か ら で あ る。

→ある者はダビデのような地上での偉大な王がローマや異邦人諸国の圧政を打ち破り、イスラエルの土地と民の自由を奪還する、また、ある者は神の国が到来するときには全世界が変えられると考えた。

弟子たちも、他の人々と同じ認識を持ち、更に自分たちは戴冠式に向かう王の行列に参加していると誤った認識を持っている。



12 イエスは (人々に) 言われた。

「ある立派な家柄の人 (→イエスを象徴) が、王の位を受けて帰るために (→NIV : to have himself appointed king and then to return

/NKJV: to receive for himself a kingdom and to return, 王位を受け、戻って来る[再臨]のために)、遠い国 (→父なる神の国) へ旅立つことになった。

→ (回復訳) ある高貴な生まれの人 (→最高の身分を持つ救い主) が、王国を受けて戻って来る (→救い主が王国と共に戻って来られることを象徴) ために、・・・。

13 そこで彼は、十人の僕を呼んで十ムナ (→10人で、10ムナ×100ドラクメ/ムナ=1000ドラクメ≒1000万円、一人当たり1ムナ=100万円) の金を渡し、『わたしが帰って来るまで、これで商売をきなさい』と言った。

→ムナ (minas、ギリシアの銀貨) =100ドラクメ=100デナリオン=100日分の賃金

→「タラント」のたとえ (マタイによる福音書 25 : 14~30)

→ **POINT** わたしが帰って来るまで、これで商売をきなさい=イエスが父なる神のもとに帰り、再臨されるまでの期間に、賜物を委託され、かつ結果も求められている (15節)。

14 しかし、国民 (→ファリサイ派の人たちや宗教的指導者等の不信のユダヤ人たち) は彼を憎んでいた ので、後から使者を送り、『我々はこの人を王にいただきたくない』と言わせた。

15 さて、彼は王の位を受けて帰って来ると、金を渡しておいた僕を呼んで来させ、どれだけ利益を上げたかを知らうとした。

16 **①** 最初の者が進み出て、『御主人様、あなたの一ムナで十ムナもうけました』と言った。

17 主人は言った。『良い僕だ。よくやった。お前はごく小さな事に忠実だったから、十の町の支配権を授けよう。』

18 **②** 二番目の者が来て、『御主人様、あなたの一ムナで五ムナ稼ぎました』と言った。

19 主人は、『お前は五つの町を治めよ』と言った。

→最初の者と同じ原則で取り扱われた (10ムナ : 十の町 = 5ムナ : 五つの町)。

→ (回復訳解説) 勝利を得た聖徒たちが来たるべき王国で褒賞として支配するのは、その範囲に差異があることを示します。

20 また、③ほかの者が来て言った。『御主人様、これがあなたのムナです。布に包んでしまっておきました。21 あなたは預けないものも取り立て、蒔かないものも刈り取られる厳しい（→厳しく要求する）方なので、恐ろしかったのです。』（と、主人に対して侮辱的な言葉を述べた。）

→（回復訳解説）忠信でない信者たちが、彼らの救いを生産的に用いることをしないで、いかに怠惰で保つだけであったかを象徴しています。主の救いをしまっておくことは、それを用いないことです。主に対するこのような怠惰は、忠信でなかった奴隷に罪定めをもたらし、損失を被らせました。

22 主人は言った。

『悪い僕だ。（お前が述べた）その（理由にもならない）言葉のゆえにお前を裁こう（→罪に定めよう）。わたしが預けなかったものも取り立て、蒔かなかったものも刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。23 ではなぜ、わたしの金を銀行（→文字どおりには、「トラペザ」＝「両替商」の台の上）に預けなかったのか。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きでそれを受け取れたのに。』

→（リビング・バイブル）王は激しく怒って言いました。『なんて悪いやつだ！わしが、そんなにひどい人間だと言うのか。それほどよくわかっていたのなら、なぜ銀行に預けておかなかったのか。そうすれば、利息ぐらいついたのに。』

→主人の意図は、預けた元本を元手に商売をして、財産を増やすことであった。銀行（文字通りには両替商）は預けられた金銭（元金）を運用し、その運用で得られた利益の一部は、投資として銀行に預けた人へ報酬（利息）として支払われた。

【一言】利息と利子

利息 お金を貸した際に受け取る対価。例えば、銀行にお金を預けた際には、「銀行から預金の利息を受取る」と用いる。

利子 お金を借りた際に支払う対価。例えば、銀行からお金を借りた際には「銀行に利子を支払う」と用いる。

24 そして、そばに立っていた人々に言った。『そのムナをこの男から取り上げて、十ムナ持っている（最初の）者に与えよ。』

25 僕たちが、『御主人様、あの人は既に十ムナ持っています』と言うと、26 主人は言った。

『言うておくが、だれでも持っている人は、更に与えられるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる（→神の国の原則）。27 ところで、わたしが王になるのを望まなかったあの敵どもを、ここに引き出して、わたしの目の前で打ち殺せ（→AD70年のエルサレム崩壊の予見）。』

→**マタイ効果**

条件に恵まれた研究者は優れた業績（結果）を上げるとで更にいい条件に恵まれるという現象。1968年、社会学者ロバート・キング・マートン、ハリエット・ザッカーマンによって唱えられた。エネルギーは意識を向けた方に流れる。御言葉を大切に思い、御言葉を受け入れ、それを心の中に持つ人は、更に神の言葉が与えられる。

ルカ 12：48 しかし、知らずにいて鞭打たれるようなことをした者は、打たれても少しで済む。すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、更に多く要求される（→マタイ効果）。

→多く与えられた者は、より厳しい基準で裁かれる。

→キリスト者には、①伝道、②祈り、③献金の三つの特権（ムナ）が平等に与えられている。

→参照：ファイル No. 125 弟子たちへの教え（4）

28 イエスはこのように話してから、先に立って進み、エルサレムに上って行かれた。

【参考】マタイ効果「タラントン」のたとえ

マタイによる福音書 25 : 14~30 = 「ムナ」のたとえ (ルカによる福音書 19 : 11~27)

「天の国はまた次のようにたとえられる。

ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれの力に応じて、一人には五タラントン (→1タラントン=6000 ドラクメ=6000 デナリオン、1デナリオン=農夫の日当)、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。

早速、五タラントン預かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに五タラントンをもうけた。

同じように、二タラントン預かった者も、ほかに二タラントンをもうけた。

しかし、一タラントン預かった者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた。

さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。

まず、五タラントン預かった者が進み出て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』

次に、二タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、二タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに二タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』

ところで、一タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だを知っていましたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。御覧ください。これがあなたのお金です。』主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、十タラントン持っている者に与えよ。

だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。 ←マタイによる福音書 25 : 29

この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』

		聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250]	
S	マタイによる福音書 13:12 持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。	
S	マタイによる福音書 25:29 だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。	
S	マルコによる福音書 4:25 持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。」	
S	ルカによる福音書 8:18 だから、どう聞くべきかに注意しなさい。持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っていると思うものまでも取り上げられる。」	
S	ルカによる福音書 19:26 主人は言った。『言っておくが、だれでも持っている人は、更に与えられるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる。』	

【参考】 天は二物を与えず GOD does not give two Gifts.

人は皆それぞれ、異なった能力を神様から与えられている。その与えられた能力に感謝し、他人と比較するのではなく、それを磨き、使いこなすことによって、その人がより豊かになるように、神様は整えてくださっている。

他人の能力をうらやみ、自分の能力を探求しようとせず、放置したままにいと、その能力はだんだんやせ衰えてしまう。神様から与えられた能力を使いこなし、磨きをかけることが、他の能力にも良い波及効果をもたらし、複数の才能を開花させるのである。

「天は二物を与えず」というが、一物は必ず誰にも与えられている。それを二物にも三物にもするか、それとも一物さえ失ってしまうかは、私たちの心の態度、心がけ次第なのである。

エネルギーは意識を向けられる方向に流れる。御言葉を素直に受け入れ、大切に思い、それを心の中に持つ人は、更に神の言葉が与えられるのである。そして、感謝の習慣を持つ者が神を喜び、同時に、神もその人を喜び、更に祝福されるのである。

また、霊的な賜物が与えられるのは、神の栄光のためであって、私たちの栄光のためでないことも忘れてはいけない。神の御名を高め、み働きを推進させるために、神は霊的な賜物を私たちにお与えになったのである。